

6年生保護者様

児童のオンラインミーティングについて

内海小学校長 永井 孝夫

今回の新型コロナウイルスによる休校期間が長引く中、6年生の保護者の方がインターネット上のテレビ会議アプリ（ZOOM）を使ったオンラインミーティングを企画して試行されています。

子どもたちの健やかな成長を願い、保護者として日頃のつながりを生かして、工夫された取り組みをしていただけることに感謝いたします。

本校といたしまして、この取り組みについてのメリットとともに、課題についても整理させていただきました。保護者の皆様におかれましても、下記についてご一読いただき、よりよい活用となるようご理解ご協力いただければ幸いです。

記

1 取り組みについての学校としての願い

- ① 傷ついたり、いやな思いをしたりする子や保護者がでないようにしたい。
- ② SNS やインターネットの使い方やマナーを学ぶよい機会にしたい。
- ③ 新しい時代に向けて、家庭と学校がよりよく連携していくよい機会にしたい。

2 考えられる課題

(1) 南知多町情報教育アドバイザーより

大きく3つのリスクが考えられるが、リスク対策を行った上ならば、使用可

① リスク1 部外者侵入や映り込み

会議中に、部外者や関係ない画像等が映り込む事例があった。

→ 会議室の開設、運営は大人が行う。現在は映り込み等への対策はアプリ自体が行っているが、万が一の事態が起こった場合に対応できるよう、必ず大人が責任をもって運営する。

② リスク2 パスワード情報等の漏洩

パスワードなどの個人情報が漏洩したのではないかという事例があった。

→ ZOOMに限らず、パスワード等の使い回しはしない。

③ リスク3 子どもたちだけでアプリの悪用

子どもたちだけで使う自体は悪いことではないが、SNSと同様、使い方によっては、いじめ・悪口等のリスクがある。

→ 使う前に、ルールやマナーを確認する。情報活用能力を身につけるよい機会としてとらえる。なお、親子で話し合う時間もとりやすいと思うので、ぜひ呼びかけるとよい。

(2) その他の課題（実践している方たちの意見等）

- ねらいと内容、方法の共有をしないまま行くと混乱しやすい。
- 人数が多くなればなるほど、一人あたりの発言が減る→内容の工夫が必要
- 話を進めるホスト（進行役）の役割が大切
- 参加しない、できないことでのトラブル（疎外感・同調圧力等）

(3) 学校としての課題

- 教職員の参加の仕方（公平性・公私の区別・学年の系統性・家庭教育の多様性）

オンラインミーティングの約束（案）

1 お家の人の責任のもとに行おう。

○子どもだけではミーティングを行いません。

○登録や個人情報を入力するときは、お家の人に必ず確認
しましょう。

2 公共の場所ということのを忘れずに。

○みんなで作っていくミーティングです。

話す言葉や態度に気をつけましょう。

○ホスト（進行役の大人）の指示をしっかりと聞きましょう。

※ 特に人数が増えたとき

3 オンラインでも、「人と人の関わり」は同じです！

○だれかが傷ついたり、いやな思いをしたりしないようにしよう。

○いろいろな感じ方や考え方を認めよう。

○いやな思いやストレスを感じたら、すぐにお家の人に伝えよう。

いつもの生活はできませんが、いつもできないことができるチャンスでもあります。
オンラインミーティングも、臨時休校期間中のよい機会としてとらえ、お家の人にも
協力してもらいながら上手に使えるようになるといいですね。

先生たちも、ときどき皆さんの元気な姿を見させていただきますので、よろしくお願いします。